

古野電気／NAPA、船舶運航のデジタル化支援で協力



古野電気・小池宗之専務取締役船用機器事業部長(左)、NAPA・ユハ・ヘイキンヘイモ社長

船舶運航のデジタル化支援で協力

古野電気／NAPA

古野電気と船舶設計・運航ソフト会社のNAPAは2日、全世界の船舶の運航に関するデジタル化をサポートするサービスの販売や商品開発、事業化を共同で推進していくことに合意したと発表した。本船上で計測されたデータ信号を収集・レポートするソフトウェア「NAPA Performance Monitoring」と「NAPA Logbook」を共同で販売する。

両社は、古野電気の船用電子機器、衛星通信サービスと、NAPAの電子データ収集・レポート・分析に関するソフトウェア技術を組み合わせたデータコミュニケーションサービスを通じて、海運会社、船舶管理会社、船舶保有会社による船舶運航の効率化や船員業務の生産性の向上、陸上における船舶管理業務の最適化を図る。NAPAが提供する2種類の運航支援ソフトウェアはモニタリングデータを船陸間で共有するだけでなく、高度なデータ解析技術によって運航の効率や安全性を向上することができる。また、二酸化炭素(CO2)排出量監視に関する欧州の環境規制(EU MRV)などへの対応を見据え、船舶データの収集・レポート・保持にかかわるソリューション提供に向けて取り組んでいる。